

研究の実際

1 研究内容 1 について

どちらか一方の学年の指導に重点化

複式学級では、異年齢の2学年を一度に指導していく必要があり、実験・観察の伴う理科においては、指導の効率性や安全性の面から問題が生じる。そのため、異なる指導内容を児童の実態や実験・観察の困難さから吟味し、指導の重点化を図ることで解決しようとした。

(1) 思考の流れに沿った指導計画の工夫について

指導の重点化を図るためには、両学年の学習内容を比較検討して、教師の関わりの大きい学習内容と児童自らが学習を進めていく学習内容を組み合わせた計画にしたり、学習過程に「ずらし」を取り入れたりするなどして、できるだけ教師の関わり方に傾斜をつける工夫をしていくことが必要である。

具体的には、検証授業での第4学年「水のすがたとゆくえ」では、児童の思考の流れから、空気中の水蒸気は、空気の温度変化によって状態を変化させ、循環しているといった見方や考え方、水の状態変化と熱を関係付ける能力をより高めるために、いろいろな物から空気中に水が出ているという新たな学習内容を導入した。空気中の水蒸気を視覚的にとらえることは簡単なものではなく、指導の展開に当たっては、児童一人ひとりのつぶやきから変容を見取っていくことが必要となる。

一方、第3学年「明かりをつけよう」では、実験・観察において安全面での課題も少なく、教材を工夫することにより、間接指導時であっても児童の変容を見取ることができるのではないかと考えた。

そこで、本時では、第4学年「水とすがたとゆくえ」に重点をおいて指導することにした。

【資料6：学習指導案2】【資料7：児童の記録3】

〔单元全体の指導計画例(第3学年 明かりをつけよう 第4学年 水のすがたとゆくえ) 〕

4 指導計画(3年 全6時間、4年 全12時間)

次	教科の具体的な活動のかけ	主な学習活動(3年)	指導の傾斜	主な学習活動(4年)	教科の具体的な活動のかけ	次
一	子ども一人ひとりに実験の準備ができていないという実態を踏まえて、実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	指導の傾斜	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	子ども一人ひとりに実験の準備ができていないという実態を踏まえて、実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	一
二	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	指導の傾斜	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	子ども一人ひとりに実験の準備ができていないという実態を踏まえて、実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	二
三	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	指導の傾斜	実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	子ども一人ひとりに実験の準備ができていないという実態を踏まえて、実験の準備が完了するまで待つ時間を設ける。	三

児童の実態，学習内容からどちら重点を置くか吟味します。

指導計画の中には、児童の思考も記していきます。

